

第二百九十八回 青葉会

平成二十三年正月四日(月) 吉例初芝居見物 新橋演舞場(昼の部)
一月二十七日(木) 初句会 丸紅一階レストラン「談話室」

〈選者〉 ☆ 川合万里子 先生

〈出席者〉

伊賀山そらお 石川清 今井紀久男 大林猛 小川恭延 柿崎忠彦 小西弘子
豊田ゆたか 中野一灯 中山芳博 橋口隆 山内天牛
久米五郎太 朱牟田恵洲 土谷堂哉 福島正明 南平和夫 宮内規雄 山崎亜也
渡邊盛雄

〈紙上選句〉

赤田堅 川口孤舟 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 村田くに子 山崎青史 山本三恵
ゴシックは選者の天

《選者吟》

心友の柩を目守(まもり)り霜夜更く
寒晴や陸橋撤去の交差点
巨鯉(おほこひ)の頭すれすれ番鴨(つがひがも)
ツイッター自他を確かめ年新た
買初や花柄を選るタジン鍋
全 全 全 全 全

《互選句》

十点

柝(き)の入りて幕の内外淑氣満つ
紀久男 (そ・孤・龍・敏・芳・一・允
く・青・天)

五点

二次会を逃げて独りの街寒し
夢多き古希に向ひて除夜詣
そらお (堅・忠・一・芳・允
堂哉 (万・堅・猛・忠・ゆ)

四点

☆ ことしまた眺(あしうら)ぱつくり餅(ひび)ふたつ
☆ 皆笑顔車椅子での初詣
☆ 初荷旗(青)ごめんなさいよと行く築地
☆ ダウン症の子の温和(おとな)しさ日脚伸ぶ
☆ 初撮りや曾孫の一人ふえし母
恵洲 (万・そ・恭・く
堂哉 (万・そ・清・青)

三点

湯煙(青)ににじむらんぷや深雪宿
火の酒を呷り寒九の迎へ水
☆ 新年の挨拶廻り万歩計
鏝(ちりば)めし春の布切れキルト展
年越せず逝きたる兄の冷めたき手
☆ 健診を終え町歩く寒日和
そらお (紀・恭・敏
全 (万・恭・芳)

二点

大寒や日射しを求むる猫五匹
餅飾虚実ほどよく盛られけり
検札のやはらかき声冬景色
荒唐無稽それもめでたし初芝居
七草を子に教へゐる若き母
菜の花も富士も見えをり吾妻山
冬日乗せ池面(いけも)微(かま)かに動きをり
寒鰯や富山産と云ふ魔力
入口で眼鏡曇る日新年会
五郎太 (清・弘・天)
弘子 (堅・孤・芳
全 (紀・一・三)
恵洲 (紀・弘・く
亜也 (そ・ゆ・隆)
そらお (堅・忠
恭延 (猛・芳)
忠彦 (猛・ゆ)
全 (天・三)

それぞれに家路のありて冬銀河
熱爛の一本我が家天國に
深眠る風待ち湊寒の月
一禮し雪払ひやる海難碑

(青：中七が上手い。肅然たる様子がよく出ている)

☆大晦日柩を包む聖歌かな

(☆：「包む」字をもう一考。平仮名でも)

初夢や思ひがけなき人に会ふ
ビリケンの日溜りに居る小正月
失せし夢次第に遠く冬北斗
水割りのグラスに浮かぶ寒昂
誘はるも行けぬ淋しさ初芝居
火酒清酒空瓶殖ゆるキムチ鍋
探梅や就職願ふ絵馬もあり
初芝居怨念舞台に迸る

(三津五郎の曾我五郎。福助のお三輪)

晴着舞ひ新成人の声弾(はじ)く
多摩の土手梅一輪を見付けたり
整形医新年早々足挫き
賽銭を遠くから投げ初詣

互礼会東御苑の梅開く

☆駅伝のメロスに旗振る三日かな

在日二世の句集は「泣くな！」冬灯

(姜琪東(カン・キドン)の「ウルジマラ」)

堀越しの水仙の香や武家屋敷
冬鳥の訪(おと)なひ嬉し珈琲どき
書初めの子らにぢぢいのアドバイス
寢床より気合ひで抜け出す寒の朝
寒柝に辻の門灯明滅す

☆犬尿(し)し龍の玉ぞと言ひ聞かず

飯椀でコツンと割りし寒卵
宵越しの迷ひふつ切れ若布汁
初富士や声のあがりし新幹線
年の市ひと巡りして百合根買ふ
一番星あればネロ星聖夜かな
六地藏祠(ほこら)に降りこむ小雪かな
春聯の紅き地色や國興る
三番目子供出来たと初電話
「芋洗い勸進帳」や初歌舞伎

弘子 (龍・允)
ゆたか (紀・敏)
一灯 (そ・允)
全 (隆・青)

隆 (万・弘)

全 (堅・ゆ)

正明 (紀・三)

盛雄 (忠・敏)

全 (紀・孤)

清 (紀)

紀久男 (恭)

全 (猛)

恭延 (紀)

猛 (清)

全 (芳)

忠彦 (龍)

全 (天)

五郎太 (隆)

弘子 (万)

恵洲 (弘)

堂哉 (孤)

ゆたか (龍)

全 (清)

全 (そ)

一灯 (孤)

芳博 (万)

全 (孤)

全 (龍)

全 (三)

規雄 (紀)

全 (敏)

和夫 (紀)

亜也 (紀)

天牛 (猛)

全 (三)

●次回青葉会

二月二十四日(木) 午後六時〜九時 丸紅一階 談話室

▲当季雑詠各自五句。投句は二句

三月二十四日(木) 第三百回

談話室

▲今年度会費集めます(ア寿)

▲300回記念合同句集の作品募集(各自20句、切は三月末)

四月二十八日(木) 300回記念向島吟行(会費、ム寿)

五月下旬 300回記念合同句集 上梓

以上文責

紀久男

平成二十三年一月初句会

一、当会吉例初芝居総見は久しぶりの由美子さん、術后順調の恵洲さん含む11名。
橋之助らの「御撰ごひいき勸進帳」吉右衛門・三津五郎・芝雀らの「対面」團十郎・福助らの「妹背山御殿」。役者・演目共文句ありませんが、演舞場は歌舞伎座の豪華さに遠く及ばず正月気分いまひとつです。

一月の歌舞伎公演は今年も東西五座（演舞場・国立劇場・浅草公会堂・大阪松竹座・建替え中の歌舞伎座に代わりルテアトル銀座：例の海老蔵事件で玉三郎が肩代り）、新派の三越劇場も含めいづれも大入り。この盛況に冷水を浴びせたのが富十郎の急逝。そして体調不良による芝翫・勘三郎・愛之助（二日間のみ）の休演。大きな暗雲です。

二、初句会は術后養生されておられた忠彦さんから13名出席。投句は久しぶりの五郎太さんから8名。捌きはいつもの弘子さんで活潑な発言に終始。

先生お手製のアツプルバイ、弘子さんの鮎あし（こり）佃煮と胡桃くるみ煮（金沢の近岡屋）、天牛さんの「美々卯・凍結酒」（灘）、芳博さんの「九重桜」大吟醸・純米大吟醸・古代赤米酒（さいたまの大瀧酒造）、小生の琉球泡盛「千年の響」（25年古酒）ドライマンゴー（セブ島）と盛り沢山。しかも二次会の三幸園には七名参加。句会開始前に龍平さん囲んでビールで歓談。呑ん兵衛句会の看板に偽り無し。

話題は300回記念行事。大阪支社梅田移転話。正明さんの病状等でした。

三、関係者近詠

塔仰ぐ無重力感秋高し

万里子

あんなことこんなことあり木の葉髪

規雄

行く秋や皇居に多き武家の跡

全

「NHK俳句」一月号 三村純也選

雌かまきり御苑の末をひた攀づる

全

景気よく耀せられてゐたり氷見の鱒

允章

モーツアルト聴く鳩白き宮の秋

全

冬靄や東京と謂ふ大森林

全

竹筒に灯を入れ紅葉へ道標

全

どんど焼闇に炎のちぎれ飛び

全

落葉敷く樹齡五十の外周に

全

百歳翁の破顔の笑みや日脚伸ぶ

恵洲

冬晴へ耳朶出さなイヤリング

全

氷点下の予報早寝と決めにけり

全

のどあめの塩気に聴し風邪癒えぬ

全

白水仙姿正しく活けらるる

全

風邪の胸ブローチの位置決めかねて

全

「大鉄会1月」
じやれる犬毛糸編棒へし折れり

天牛

秋の滝大岩塊を落せると

全

初旅や窓にとびこむ伊豆利島へとしま

清

けふも絵馬溢れて湯島菊薫る

全

賞状も写真も燃やすどんど焼き

正明

庭を掃く小春の妻のリハビリよ

和夫

初手水孫のみみじ手跳ね流る

龍平

古希祝ふ酒控え目に石露あかり

紀久男

どの兎にも分隔なき初日

新居齋

食卓に菊一輪や退院日

忠彦

鶴唳や朝の曠野を引き締めて

孤舟

都会風かな葱の束鉢植ゑに

全

たまらない鮫鱈鍋の湯気匂ひ

猛

降りる発つ一緒なりやこそ稲雀

弘子

なんとこの俺が古希なり年新た

堂哉

うかうかと銀杏ひとつ踏みにけり

全

小春日や河岸の仕舞の水飛沫

丹野敦雄

熱爛の酌を習ひて下戸の酌

全

「俳句」二月号 行方克己選

「萬緑」1月号

全

目の入らぬ達磨を納め一の酉

全

「俳句」2月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

「俳句」1月号

「俳句」2月号

「俳句」2月号

名村早智子選

平成二十三年二月十四日

紀久男記

「爽樹」創刊号（一月、隔月発行）に5句発表。孤舟さんは月5回句会を指導される上に俳誌編集長の大事な我々としては御健闘を祈るのみです。

一禽の発ち厳寒の湖覚ます
「俳句界」1月号。カラ―一頁に小山代表、遠藤副代表と並んで「爽樹」川口編集長のスナップと三頁に亘って爽樹俳句会を紹介。

良夜へと艫舵の重き舟出かな
孤舟

「爽樹」創刊号（一月、隔月発行）に5句発表。孤舟さんは月5回句会を指導される上に俳誌編集長の大事な我々としては御健闘を祈るのみです。